



### <マラソン大会でのご声援ありがとうございました>

東京2020オリンピックでの開催地変更や未公認ながら人類初めて2時間を切るタイムが出されたということで注目を浴びているマラソン種目は、「オリンピックの花」とも言われている種目ですが、子どもたちのマラソン大会は、毎日の長休憩の練習の積み上げをして、年2回、自己記録更新や自分の立てた目標と競いながら最後まで走り切っていくものです。子どもたちは、一人ひとり大会までの練習、当日目標に向かって最後まで走り切ることをしながら成長していっていると感じます。どちらかといえば、「粘り強さ」「頑張り切る」といった辛さを多く乗り越えるような種目だと言えますが、子どもたちは、6年間目標に向かって頑張りぬいて多くの成果を出しているのではないかと思います。(今回おいでくださった方から、6年生女子が「会場で応援していたことへのお礼を言いに来てくれた。」といった話も伝え聞きました。こうした広がりが出てきていることも素敵なことだと思っています。)

当日おいでくださり、多くのご声援いただきました。ありがとうございました。

### <先人の生き方を学ぶことについて>

時々、この紙面に先人ことを載せますが、それは、子どもたちの成長過程において、人生の師になる人にたくさん出会ってほしいという願いがあるからです。(これは、私たち教職員にもあてはまることだと思います。)

「先人の生き方を読んで学び、自分の心・生き方を見つめ直し、心の記録としていく。」(人生の生き方・考え方等に対して共感するのは、自分の心が求めている生き方・考え方だと思っています。)そのことで、自分の中に生きる支えができ、いろいろな見方ができるようになっていくと考えます。(それだけ先人の生き方には、あらゆる状況に即した答えもあると思います。)このことは、医学的にも証明されているようで、ストレスに悩む患者に先人の生き方を進めたところ、これまで脳科学で答えの出なかったことに対しての効用が見られたということもあるようです。

図書館にも、先人の生き方に関する本はたくさんあるので、手にとって読んでみてほしいという願いを持っています。

失敗を大切に努力の科学者：田中耕一（ノーベル化学賞受賞）

「自分で考え、自分で歩き、自分で作り、運び、自分の力でやってみる」

・田中耕一は、医療機器を開発する研究所で、タンパク質を調べる機械をつくる研究を続けました。(ガンの仕組みやその薬の研究が進むもの)ある日の研究中に間違った薬品を混ぜてしまう失敗をしましたが、この失敗が新しい医療機器の開発につながるようになりました。その後も、もっと簡単に使うことのできる機器の開発のために研究が続けられています。

私たちの身の回りには、便利な道具がたくさんあふれ、苦労することなく生活ができています。しかし、自分で物事を確かめ、工夫してよりよくしていこうとする姿勢と、実現しようとする努力がなければ、なかなか進歩は望めません。「自分で考え、自分の力でやってみる。」少年時代に書かれた言葉は、便利な世の中に生きる私たちに大切なメッセージを送っているように思います。

### 放課後の陸上練習頑張りました 入賞おめでとう(敬称略)

<第22回鳥取県小学生陸上競技大会>

小学女子走高跳 第3位 1m10cm 北原 仁瑚

<第43回中部小学校陸上大会>

6年男子100m 第2位 13秒70 宮脇 伶也

6年男子走幅跳 第5位 3m96cm 瀬戸 宝

6年女子Bクラス 山本 桃華 北原 仁瑚

400mリレー第6位 1分01秒94 角 桃花 山本 愛花

<第43回鳥取県小学校運動記録会(陸上)>

6年男子100m 第3位 13秒39 宮脇 伶也

<第20回鳥取県民スポーツレクリエーション祭>

6年男子100m 第3位 13秒51 宮脇 伶也

<第37回東伯郡秋季二部学童軟式野球大会>

準優勝 東郷・泊野球スポーツ少年団(泊小児童6名)